「尚徳」５月号　第５０１号　　平成２６年６月２５日
鳥取大学附属小学校　学校便り
http://www.fuzoku.tottori-u.ac.jp/~fusho/
題字「尚徳」は，住川英明教授（地域学部）

「一つ拾えば、ひとつだけきれいになる」

鳥取大学附属小学校　副校長　谷口英昭

給食後、本校では掃除の時間となります。最近、職員室横の階段掃除をしている４年生の姿に感心しました。

その子は、小ブラシを使って階段を一段一段ていねいにごみを掃いていました。しかも、よく見ると滑り止めのゴムシートの一本一本の凹凸に沿ってブラシを動かし、つまったごみをはきだしているのです。階段にしゃがみ込み、ゴムシートを凝視し、黙々と手を動かしているのです。つまった砂は何度も掃き直しかき集めています。その子の掃除した後は、確かにきれいになっています。その姿に、その子の人柄、心が表れているようで、思わず嬉しくなりました。

【ていねいにごみを掃いています】

表題の**「一つ拾えば、ひとつだけきれいになる」**という言葉は、平成５年に「掃除」の大切さを見つめ直そうと結成された「日本を美しくする会　掃除に学ぶ会」のＨＰに掲載されていた言葉です。「日本を美しくする会　掃除に学ぶ会」は、心を込めて掃除をすることで会社を一流企業に育てた鍵山秀三郎氏の「掃除哲学」に学ぼうという有志が集まって生まれたものです。

たかが「掃除」が、なぜ会社の成長と関係があるのでしょう。そして、「掃除に学ぼう」とする人々がいるのでしょうか。

掃除という言葉のイメージは決してよくありません（特にトイレ掃除)。「汚い」「めんどくさい」といった負のイメージがつきまといます。自分個人の部屋ならともかく、不特定多数が共用する場所の掃除に意欲的に取り組むことは決して簡単ではありません。

鳥取県でも数年前、教職員研修の一つとしてこの会のメンバーの方を講師にトイレ掃除を実施していました。その参加者の感想には、「まず、教室がきれいにならなければ学習も集中できない。ごみの落ちているクラスは荒れていく。」「気づかないところで誰かが自分の生活を支えてくれている。そうした人々の支えに感謝することの大切さを学んだ。」「最初は便器を素手で磨くことに抵抗感があったが、やっているうちに、きれいにすることの価値を自分自身が問い直した。便器を磨いたが実は自分の心を磨いたことに気づいた。」といった様々な気づきがありました。

普段の清掃活動に対する取り組みをしっかり見つめ直すことで、自分自身を磨き、視野を広げ、そのことが結果として仕事に対する取り組み姿勢へと生かされていく。そのことを普段から意識し実践するために「掃除に学ぼう」としている人がいるのではないでしょうか。

「一つ拾えば、ひとつだけきれいになる」…決してごみが一つ減るだけでなく、きれいになるものは、さまざまあることでしょう。

今日も学校で掃除があります。掃除の時間も大切な学習の場です。黙々と掃除に取り組んでいる子どもたちに感謝するとともに、私自身もきれいになるようトイレ掃除を頑張ります。（ちなみに男子職員トイレの掃除は私の担当です。）

主な７月行事予定

２日（水）懇話会執行部会・常任委員会
４日（金）附属中研究発表会　弁当後下校
７日（月）４年学年行事（体育館）
８日（火）５年学年行事（体育館）
１０日（木）６年学年行事（多目的）
１１日（金）１年学年行事（体育館）
　　懇話会第１回一斉パトロール日
１３日（日）市スポレク祭（水泳参加者）
１７日（木）学校保健委員会
１８日（金）３年学年行事（体育館）
２４日（木）夏休み前集会
２５日（金）夏季休業日開始（～８月２５日）
２８日（月）市小学校水泳競技大会（選手のみ）
※プール開放（ 7/28～8/7　12:30～14:30）

「おはようおはなしの会」による読み聞かせ

【ブラックシアターに夢中】

「おはようおはなしの会」のみなさんが、毎月、学級ごとに読み聞かせをしてくださっています。「本は心の栄養だ」といった人もあるくらい読書は情操教育の面からみても大切な役割を果たします。たとえ高学年になっても、黙読とは違う「語り」を通して、想像を膨らませながら本の世界に浸ることは価値のあることです。

実は、「おはようおはなしの会」のみなさんは、どんな本を選ぶのか、いろいろ工夫をされています。これまで紹介した本の履歴や子どもたちの話題、興味・関心、世情や時候等を考慮しながら、本を選定し、伝え方も内容によって変化をつけたりされています。

そのおかげで、お話を聞く子どもたちの表情は生き生きと輝いています。ご家庭でも、親子の団欒として読み聞かせをされてはいかがでしょう。

不審者から身を守ろう！（防犯教室）

【スクールサポーターさんのお話】

５月２６日にスクールサポーターの高本さんを講師にお迎えし、不審者に遭遇した場合の身の安全を守る方法について、具体的な場面を想定した役割演技を通して学習しました。

鳥取市内でも、不審者事案は起こっています。なるべく一人で行動しないようにするのはもちろんですが、いざという時に的確に対応できるよう、学び続けることが大切です。事あるごとに子どもたちの意識が高まるよう学習していきますのでご家庭でもご協力お願いいたします。

水泳学習始まる！　～目標に向かってチャレンジ！～

【３年・５年合同プール開き】

６月中旬から水泳学習が始まりました。

プール開きは、兄弟学年で行いました。上学年の児童が下学年の児童をリードし、水に顔をつけたり、水中を走ったりする活動を一緒にしたり、クロール・平泳ぎなどの泳法のお手本を披露したりしました。

水泳の学習では、泳力の向上だけでなく、重大な事故に直結する場合もある水の怖さを知り、自他の命を守るための知識・技能を習得することも重要です。したがって、ルールやマナーをしっかり守ることは、特に大切にしています。

～教職員シリーズ～　　環境保全と地域の活性化　　附属小学校　谷田　健司

【学校から見える湖山池】

先日、「30 年振りに復活　湖山池のシジミ漁」というニュースを見た。

近年、水質悪化の影響で漁獲量が激減していた湖山池で、約 30 年ぶりにヤマトシジミの出荷が始まりました。湖山池漁協の邨上和男組合長は「ジジミ漁を活性化し、ブランド化し湖山池を日本一の漁獲高のある池にしたい。それが夢です。」と語られました。

このニュースの向こうに、ヤマトシジミのブランド化による地域の活性化、浄化作用による湖山池の環境保全など、幾つかの社会の構造が見えてきます。

3 年生の「ちいき」では、毎年湖山池をテーマに学習しています。一口に湖山池といっても湖山池とその周りの環境は毎年のように変化しています。

身近に社会構造の見られる教材があることは素晴らしいです。

今年度は、幻のヤマトシジミを通して、子どもたちと湖山池を見つめ・調べ・まとめていく中で、新たな湖山池の魅力を見つけていきたいです。そして、環境保全と地域の活性化についてしっかりと考えたいです。